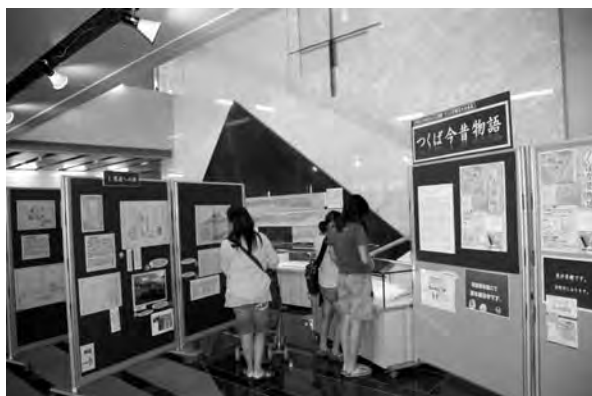


## つくば分館夏の企画展「つくば今昔物語」について

国立公文書館つくば分館

### 1. はじめに

国立公文書館つくば分館は、平成20年10月に開館10周年を迎えた。平成15年以来毎年開催してきた夏の企画展においても、「つくば今昔物語」と題し筑波という地元の歴史を公文書等の資料を通して振り返る展示を開催し、節目の年を記念することとした。つくば分館の夏の企画展は、つくば市が主催する「つくばちびっ子博士」事業（つくば市内の小中学生を対象に、研究学園都市内の研究・教育機関等において科学技術などに直に触れることにより、科学に対する関心を深め、夢と希望に満ちた未来を考える手がかりとすることを目的とする）に協賛し、毎年夏休み期間を中心に開催している。平成20年の開催期間は、7月22日（火）から8月30日（土）までの平日、8月の土曜日を含む34日間であった。来館者数は2,600名で、前年より開催日数が少ないにもかかわらず前年以上に多くの見学者に足を運んでいただき、盛況のうちに開催することが出来た。



玄関ホール展示風景

### 2. 企画展の内容

「つくば今昔物語」展は、筑波研究学園都市という全国初の学園都市建設構想により街作りが進

められてきた「つくば」という地域が、どのような歴史を歩み現在の姿となったのかを、国立公文書館が所蔵する資料を中心に辿り、この地を拠点とするつくば分館としての足場を確かめようとするものである。展示は、時代順の4章構成とし、『常陸国風土記』、『天保巡見日記』、『筑波山上画図』などの江戸時代以前の書籍や古地図、明治以降の鉄道敷設や軍事拠点としての痕跡を示す公文書類、「筑波研究学園都市建設法」などの法律原本など計22点の資料を掲げ、霊場筑波山を擁し学术研究の街としての貌を持つ筑波の歴史を、写真や地図、図表などをあわせて多角的に示した。展示の構成は、次の通りである。

- I 筑波への旅
- II 筑波の近代
- III 学園都市誕生
- IV 「筑波」から「つくば」へ

「つくば今昔物語」展は、十周年を記念する展示として、展示内容をはじめチラシや展示目録に至るまで、全て分館が独自に企画立案する初めての試みとなった。展示は、一つの地域に的を絞った内容ながら、当館が筑波に関連する資料を数多く所蔵していることにより、江戸幕府および明治政府から伝来する内閣文庫の資料や、国が保存する公文書を通して地域の方から見た歴史像を提示するという一つの試みが可能となった。展示方法は、玄関ホールの限られたスペースと約32㎡（およそ20畳弱）の常設展示室の一部を夏の企画展コーナーとし、レプリカと写真パネルとを併用するとともに、内閣文庫所蔵の『常陸国筑波山縁起』および『利根川図志』、筑波鉄道の免許申請書等を



常設展示室内原本展示コーナー

収めた『鉄道省文書』の原本を、期間中展示替えを交えながら展示した。つくば分館の常設展示室は、資料の原本展示に対応した調湿温の設備を備えているわけではないため、展示に際しては調湿シートや湿度計を活用し毎日書庫に収納することにより、原本の保護に細心の注意を払いながら実施した。

「つくば今昔物語」展は、地元の方々もあまり目にする事のなかった古書籍、古地図や公文書類を数多くご紹介する好機となった。企画に際しては、茨城県つくば地域振興課およびつくば市教育委員会、国土地理院、土浦市立博物館、つくば市埋蔵文化財出土管理センター、都市再生機構などの諸機関、郷土史研究家の方々など地元の皆さん、さらに国立公文書館が運営するアジア歴史資料センターにおいて資料を公開している防衛研究所図書館などのご協力を得られたことで、写真や地図など視覚に訴える展示資料を数多く交えることが出来、小中学生にも親しみやすい立体的な展示が可能となった。また、展示を見ながら答えることの出来るクイズを実施するとともに、歴史公文書探求サイト「ぶん蔵」のキャラク

ターによる会話形式の展示内容の解説など、より分かり易い展示になるよう配慮した。つくば分館における夏の企画展は、公文書館の存在を広く知っていただき、大きな関心を寄せていただくきっかけとして年々着実に地歩を固めつつある。今後も地域に密着した分館ならではの展示を心がけ、公文書および公文書館の業務に関する理解や関心を深めて頂けるよう努めたい。

### 3. 和綴じ体験講座

「つくば今昔物語」展では、前年に引き続き和綴じ体験講座を実施した。和綴じ体験は、夏の企画展における小中学生向けの体験講座として平成19年にスタートし、今回で2回目となる企画である。和綴じは、針と糸で紙を綴じることにより極力資料を傷めることなく保存することが可能な製本の技術であり、体験講座を通して資料を大切に保存、管理してきた先人の知恵に学び、公文書館の役割の大切さを体感してもらおうという意図のもと行っている。体験は無料で、完成した作品は記念に持ち帰ってもらい、表紙部分に印刷した公文書館の利用案内や「ぶん蔵」のキャラクター



展示目録



ポスター



和綴じ体験講座

「くらら」や「モジョジョ」のイラストを通して、公文書館の存在をPRする素材となることを期待している。

講座の開催方法は、当初時間制を採用したものの、希望者全員が参加できるようにするため随時開催に切り替え、前年同様非常勤職員が交替で講師を務めて対応した。体験用の教材は、三つ目綴じと四つ目綴じの二種類とし、非常勤職員が通常業務とのバランスを考慮しつつ手作りで準備した。つくば分館の業務は、公文書の受入れからくん蒸処理、目録作成および排架、マイクロフィルム作成などに及び、体験講座の教材の準備や講師としての対応も、職員一同の協力のもと柔軟に実施している。

今回は、前年にも体験したが是非もう一度やってみたいという熱心な子供達の声が多く聞かれ、少し難しい四つ目綴じに挑戦する低学年の子供達も多かった。講座の参加者は、最も多い日で延べ100名ほどにのぼり、三つ目綴じに約1,000名、四つ目綴じに約450名の皆さんが参加した。

#### 4. 成果と展望

企画展および体験講座について大人の来館者を対象にアンケートを実施し、約60パーセントの回答率に当たる822の回答を得た。なお、子供達の感想は「感想ノート」を置いて自由に記述しても

らっている。展示については、「筑波の歴史を知ることによって、つくばに対する愛着がさらにわいた」、「パンフレットが詳しくて、楽しめた」、「公文書と聞くと難しそうに感じていたが、分かりやすく展示してあってよかった」などの好意的な意見が数多く寄せられ、また、体験講座についても「和綴じは去年も作ったが、今年も、子供がやる前から楽しみにしていた」など好評を頂いている。一方、「場所が分かりにくい」、「展示スペースが狭い」、「照明が暗い」などの要望的意見も多く、主に設備の面で課題を残している。アンケートに寄せられた全てのコメントおよび子供達による「感想ノート」は、今後の企画展に役立てるようとりまとめ、展示の記録として玄関ホールに配置し、常時閲覧可能である。

今回は、来館履歴があると答えた人の割合が約30パーセントにのぼり、前年の約10パーセントから飛躍的に伸びている。つくば分館の企画展への来館者は、夏休みの子供達とその親御さんというグループがほとんどである。今後は、こうした来館者に加えて大人の来館者が増加するようPRを図り、より分かり易く地元の皆さんに関心を持ってもらえるような展示を企画するとともに、限られた環境のもと、より見やすい工夫を重ねるよう努めたい。